

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500457		
法人名	有限会社マエダ商事		
事業所名	うめたグループホーム		
所在地	037-0022 青森県五所川原市大字梅田字福浦475-13		
自己評価作成日	平成28年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>隣接されているデイサービスセンターの祭りや保育園の行事に参加し、園児や地域の方々との触れ合いを持ち、交流を深めています。家庭的な雰囲気の中でホームの畑づくり、野菜の収穫、草取りと利用者一人ひとりのニーズに合わせ、自分のペースで生活を送れるよう取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣の保育園と合同の遠足や、グループホーム主催の祭りには地域住民の参加を各家庭を回って呼びかけをしたり、地域交流に活発に取り組んでいる。また、職員は運営理念である「利用者の人格尊重」「家庭的で愛情のある介護」「地域との連携交流」を常に念頭に置いて業務にあたっており、時の流れがゆったりしているように感じられる。グループホームには温泉が引かれており、近隣の温泉も利用できることから、温泉浴を楽しめる環境にある。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに基本理念と運営方針を提示し、職員皆が理念の理解に努め、日々のサービスを心がけています。	理念は管理者、職員で話し合いのもとに作成され、定期的に再検討して利用者の状況や要望に合わせて変更している。地域との連携強化が謳われており、避難訓練の地域住民参加や保育園と合同の遠足、運動会など業務に反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園行事の参加、園児や地域住民と一緒に遠足に出掛けたり、交流を深めています。施設開催の夏祭りに招待したり、住民に受け入れられるように働きかけています。	近隣の保育園との交流が多く、遠足や運動会など合同で実施されている。グループホーム主催の夏祭りの際は、地域への宣伝として毎戸訪問し、交流を深めるように努めている。また、近隣の住民が来てねぶた囃子をしてくれたりと良好な関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は運営推進会議を通じて、様々な意見交換をし理解を図り、いつでも気軽に相談できる体制を心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者家族民生委員、行政等で構成され、ホームの行事、状況等を報告し意見やアドバイスを受け、サービス向上に活かしています。	2か月に1回開催され利用者家族、行政職員、地域住民が参加され、グループホームの状況や防災対策、地域の行事等が話し合われている。また、外部評価の結果や、それに合わせた目標達成計画についても話し合いをもち検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者へは必要に応じて、その都度電話や訪問で、助言や指導をいただき、日頃から連携を図っています。	毎月、市役所に待機状況を報告し、市役所から相談を受けることがある。また、わからないことや問題があった際は、市役所に出向くなどして助言や指導を受けており、相互に気軽に相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容や、精神的弊害について理解し身体拘束のないケアを提供していません。やむを得ない場合は家族に十分に説明して、家族の考え方も踏まえ、同意を得て記録に残します。外出傾向の方を察知、見守り支援をしています。	身体拘束マニュアルが作成され、内部研修や伝達研修を開催し、職員の知識向上に努めている。やむを得ず身体拘束が必要な場合には、家族に状況を説明し同意を得ている。日中の施錠はせず、利用者の言動に注意して行動の把握に努め、外に出るときは職員が同行するなど取り組まれている。	身体拘束に関する書類が整備されているが、内容的に不備があるため、様式を見直して整備することが望まれる。また、身体拘束の対象となる行為について不明瞭な部分があり、さらなる勉強会の継続と、不明な部分は行政機関に確認するなど知識の向上と業務への反映を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修の推進を図り、理解を深め、虐待防止に努めています。職員間でも自分の言動を振り返る為に、話し合いの場を持つように日々心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修の推進を図り、内容の理解を深める。既に利用されている入居者に関しては状況を会議等での説明、報告をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居の際は、利用者や家族の不安や疑問点に十分な説明を行い、理解納得して頂き同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族には面会時に、近況報告すると共に要望や意見を述べられる様に、声掛けをしています。問題点は各職員で話し合い、対応策を考え改善に努めています。	面会時には近況を伝え、家族の意見を聞き出せるように声をかけている。遠方の家族に対しては月に1回、電話で近況を伝えて、意見を伺っている。家族の要望に対しては職員で対応策を話し合い業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月の会議で意見や提案を検討しています。必要に御応じて代表に確認を行い実地しています。	理事長が毎日出勤し、意見交換がなされている。また、理事長、管理者ともに話しやすい環境にあり、出された意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の努力や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける様に配慮をしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の推進を図ると共に、受講後の復命書と資料を用いて、他職員への周知に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会へ加入しています。各研修へも参加し交流が持てる様な機会を設け意見を共有し、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してサービスを利用して頂けるよう、本人の話しを傾聴し、不安や要望等を家族の協力を得ながら、徐々に安心した生活を送れる為の、関係づくりの努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係者からの話しを傾聴し、十分に話し合いをしています。家族の都合も考慮しながら信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始にあたり、本人と家族の要望と状態を把握し、必要とする支援を見極め、多方面でのサービス利用を含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人のできる力に寄り添う気持ちで接し、得意分野に於いては指導を仰ぎ、利用者が主体となって共に暮らせる関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密に行い、家族の思い意見をくみ取り気付きを把握し、共有しながら一緒に支えて行く関係を築ける様につとめます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との会話の中から、関わってきた人や馴染みの人の場所を把握し、関わりを継続できるように連絡を取り合い、体調を考慮し外出できる様に支援しています。	家族の協力のもとにお盆に帰省したり、行きつけの美容院に外出するなど、関係性が途切れないように取り組んでいる。また、知人の面会も多く野菜を頂いたりなど、馴染みの方との交流が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重しながら利用者同士の状況を見極め声掛け傾聴して、タイミングを図りながら交流できる様な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりを必要とされる利用者や家族を支え、これまで築いてきた関係を大切にして、支援していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望に添えるように努めています。対応が困難な場合は、その都度家族等の協力を得て、その人らしい生活が出来るように支援しています。	年に1回アセスメントを実施し、利用者の状態や要望の把握に努めている。要望に対しては家族に確認したり、職員で対応策を話し合い、ケアプランに反映させている。職員は日常的にも会話の中から要望を引き出せるように接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活状況や家族の情報から、生活歴や個性、価値観の把握に努め、その人らしい生活が送れるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしや生活リズム、心身の状況を把握できる力を見極め、負担にならない様に支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で十分に話し合い、本人家族の意見や要望を反映された介護計画の努め、状況に応じて 現在必要な介護計画作成をしています。	個々の要望や家族の意見に合わせて検討し、利用者主体の計画が作成されている。3か月に1回の見直しが実施され、モニタリングで変化があった際には内容を再検討し、計画を変更するなど、状況の変化に合わせたケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の生活状況を個別ケースへ具体的に記入し、全職員は情報を共有しながら、必要な支援を話し合い、見直し等に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性には限りがありますが、本人や家族の状況の変化や、必要な対応を話し合い柔軟な取り組みに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接されている保育園、デイサービスの行事に参加し、ホームでの夏祭り等、家族や地域の方々の協力を得ながら、交流を持ち安心した暮らしが出来る様支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの受診状況を把握し、協力医院への受診。本人と家族の意向を聞き、希望する医療機関を受診できるように支援します。	入居前の主治医を継続し、受診の際はグループホームで対応している。受診後の結果については、面会時に家族に伝え遠方の家族には電話で伝えている。また、受診内容は個別の受診ノートに記載し、職員全員が把握できるように努めている。次回受診日を家族に伝え、面会時不在にならないように配慮されている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医又は協力医院への、電話連絡、相談できる体制になっており、状況、状態によっては早急な受診につとめます。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報交換は、随時、医療機関や家族と行い状況把握に努めています。退院後の生活についても主治医と相談しながら対応しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族と今後の方向性について、十分に話し合いを行います。医療機関とも連絡しながら、他事業所を紹介する等の支援に取り組んでいます。	入居時にグループホームで出来る最大限の対応について十分説明して同意を得ている。医療機関との関係が良好であり、退院時などは、グループホームでの生活が継続できるか、医師・家族を交えて検討され、対応が困難な場合には他事業所を紹介するなどの支援体制ができています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は普通救命講習を修了しており、急変や事故に対し、実践力を身につけるように努めています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー及び自動火災報知、火災通報装置を設置済みです。年2回昼夜を想定し、消防訓練を実施しています。運営推進会議にて、地域の方々への協力体制を築いています。	年に2回、日中想定、夜間想定避難訓練を実施し、地域住民も参加されている。運営推進会議において地域への協力体制を呼びかけている。	消防設備の取扱い方法が全職員に伝わっていないようであり、定期的に操作手順を確認し、火災や誤動作の場合においても全職員が確実に操作できることと、災害時には通信ラインが途絶えることを想定し、一時避難所の場所や連絡先を家族に伝えることが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格、生活歴を把握し、否定拒否する事なく、人格を尊重し、その場に合った声掛けで対応しています。	職員は運営理念に掲げられている「利用者の人格を尊重し」を常に念頭に置いて接する努力をしている。不適切な声掛けに対しては、職員同士が注意し合う関係ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の情報や言動から、本人の思いや希望を把握し自己決定できる様な声掛けで対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や心身状況に合わせて、個々のペースで過ごせる様な生活支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや希望を尊重し、定期的に理髪、美容院を利用しています。希望があれば、その都度対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の畑で収穫した野菜の選別、皮むきなど本人の能力に応じて、一緒に行っています。献立に取り入れ、食事を楽しまれています。	メニューは職員が作成しているが、家族や地域から食材を頂いた場合には、変更するなど臨機応変に対応している。また、山菜や野菜の下ごしらえは利用者とともにしており、準備の段階から職員とともに楽しませている。定期的に外食を取り入れたり、誕生日には特別メニューを提供するなどの取り組みが見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや摂取量を把握し、栄養バランスを考慮した食事を提供出来るように、心かけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、定期的な義歯洗浄で清潔を保てるように支援しています。出来ない方には声掛けをし、能力に応じた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、事前に誘導したり、利用者の羞恥心、プライバシーに配慮して支援をしています。	利用者の行動に注意し、さりげなく声をかけてトイレに誘導している。1日の排尿、排便回数が記録されており、排泄状況を確認し健康管理に努めている。	時間を追って記録できる排泄チェック表を使用するなど、個々の排泄パターンを細かく把握し、尿意のない利用者もトイレで排泄できるような取り組みを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をしたり、状態に応じて体を動かす事の働きかけに、取り組んでいます。便秘傾向の方は、主治医と相談し改善を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっていますが、温泉が引かれているので、状況に応じていつでも対応できる体制で、支援をしています。	入浴日は決められているが、利用者の希望に応じて入浴できる体制ができている。また、夏季等においてはシャワー浴を追加したり、清潔保持に努めている。近隣の温泉に出かけて入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、その人に合った状況で休めるように、声掛け誘導を職員間で統一した支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の状況、記録、処方箋を個人ファイルに管理し、いつでも確認できる状態です。内服変更時も記録、申し送りして周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からの情報から、その人に合った役割を見出し、楽しみながら、できる力を活用して頂ける様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れながら、散歩や買い物、野外レクリエーション等で、気分転換を図っています家族との連携を取り、外泊外出の支援をしています。	天気の良い日には近隣に散歩に出かけたり、季節に応じて外出して屋外での活動を楽しまれている。また、希望があれば、その都度買い物に出かけたり利用者の意向を重視して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のできる範囲で対応し、外出時等に於いては、自ら支払いができる様に付き添い、支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に時間帯の確認を行い、利用者の希望と状況に応じて、速やかに対応、支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾で、四季を感じて頂いたり、テレビの音量、日差し、湿度、温度の調整を行い 刺激にならない様に配慮しています。	共用空間には利用者とともに作成された、季節に合わせた飾り付けが施されている。台所から食事の香りが漂い、生活が感じられる環境である。玄関にはソファが設置されており、いつでも外を眺められる環境にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、できる範囲内で椅子や、テーブルの配置を変える等の工夫を行い、それぞれ好きな場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、以前から使用されていた、馴染みのある物を使用して頂いたり、飾り付けを一緒に行う等、心地良く暮らせるに配慮しています。	居室には各々の家庭で使用していたものが持ち込まれており、住み替えの混乱を防ぎ安らげるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送れる様に、手すりの設置、さりげなく場所が分かる様にのれんやマーク等に工夫をしています。		